

令和3年度 自己評価・学校関係者評価

オイスカ高等学校

校訓	教育目標	教育方針
・畏敬 ・知性 ・奉仕	自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	①「満足度・充実度・幸福度No.1」を追求し、生徒の誰もが「入学してよかった」と満足する学校 ②感謝と奉仕の心を育み、学力と国際・環境教養を身に付け、180通りの夢の実現をサポートできる学校 ③持続可能な多文化共生の実現を目指す地域社会と協働し、SDGs精神の普及・促進に向けた取り組みを実践する学校

評価は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）で示す。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
学校経営 (管理職)	スクール・ミッションを再確認し、全教職員が共有化できるスクールポリシーを策定する。	全プロジェクトが定期的に会議を開催し、その内容を教職員・生徒・地域に発信する。	A	全プロジェクトが定期的に会議を実践できた。令和4年度のスクール・ミッションを年度内に確定し、全職員の共有化を図りたい。	A	スクール・ミッションの下に教職員がベクトル合わせをし、活気に満ち溢れた学校にして欲しい。
教育課程 (教務)	そのコースで学べてよかったと思える教育課程を作成する。	原案を基に教科主任と連携し特色ある3つのコースの学校設定科目を創設する。	B	教科主任会議等を通じてコースの特色がでよう新教育課程を作成した。特色ある学校設定科目と担当者を検討し決定したが、普通科の制約の中でさらに特色あるものになりたい。	B	新教育課程の下、特色ある授業を実践して欲しい。
教科指導 (教務)	ICTを活用し、より魅力的な授業を展開する。	教育目標達成やトラブル回避の為、端末使用に関するガイドラインを定め明示する。併せて教員研修を実施し、研鑽を積む。	A	コロナ禍で入国できない留学生に対してはオンラインで授業・試験・学校行事を補完した。ICT教育についても研修にも参加し研鑽を積んだ。大きなトラブルもなく実施できている。	A	ICT教育の設備は整ったようであるが、内容の充実にも努めていただきたい。
進路指導 (進路)	生徒一人ひとりとの面談の時間を増し、夢を持ち、それを実現するための助言をする。	4月・10月に実施する進路希望調査に基づきクラス担任が個人面談を実施し、適切な助言をする。そのために進路指導部はクラス担任に最新情報を提供する。	A	2度の進路希望調査は実施することができた。校外への大学・企業見学や校内での各種ガイダンスも実施することができ情報提供に役立った。	A	進学、就職共にこれまでと同じように生徒個人が満足できる結果を残して欲しい。
生徒指導 (生徒)	基本的な生活習慣を基に、「元気な挨拶」「時間厳守」「思いやりある言動」を身に付ける。	社会人となる上で、基本的な生活習慣の確立と人間力が大切になってくる。挨拶と時間を守ることを重点事項として、生徒会の呼びかけと共に指導していく。	B	挨拶と時間を守ることに、挨拶は概ね良好であるが、遅刻者が多くなってきたので改善する必要がある。特に進路の決まった3年生に目立つ。	B	心のこもった挨拶をできるように指導を継続して欲しい。
部活動指導 (生徒)	顧問の熱意を生徒に伝え、ともに成長できる環境と3年間継続できる指導体制を作る。	学校の柱でもある部活動は、人間関係や連帯感の構築に必要な事なので、3年間続けることによる達成感と自己肯定感を育む。	A	コロナ禍の規制もある中、特に運動部については対外的な練習試合や公式戦に積極的に参加している。	A	女子野球部等、新設部活が軌道に乗るように工夫していただきたい。
健康管理 (生徒)	生徒の自ら健康になるようとする意識を高め、生徒の健康の保持増進を図る。感染症予防に万全を期す。	コロナ感染症予防は今後も続けていかなければならない重要事項なので、引き続きマスクの着用や手洗いを呼び掛けていく。	A	感染症対策については、長期にわたる予防で気の緩みに注意する必要がある。主体的に健康になるようとする課題にアプローチしていきたい。	A	集団生活の中で一人ひとりの行動の大切さを自覚させていきたい。
寮生指導 (寮務)	感染者を出さない指導を前提としながら、様々な状況下における実践可能な寮行事を開催する。	安心・安全な生活を送るための環境整備、ルールの見直しを行う。感染症予防対策は引き続き注意を呼び掛けていく。	B	感染症予防対策の重点目標として居室の整理整頓を呼び掛けてきた結果、生徒たちの意識の向上が見られた。ルールの見直しを継続していきたい。	B	安全・安心な寮生活を営めるように、これからも御指導いただきたい。
留学生指導 (留学生)	日本語の学力を付ける。その指標としてより高い日本語能力資格の取得を目指す。校内での日本人との交流を深める。	授業時間以外での補習を実施し3年間で最低 JLPT のN2を取得。授業・学校行事を通じ自国以外の生徒と関係を持たせる。	A	来日できている留学生は授業時間以外の時間で日本語の補習を実施した。7月の日本語能力試験では合格率が50%以上となった。	A	ICTを活用して乗り切っていただきたい。
広報 (広報)	本校への中学校教諭及び中学生・保護者の関心を高め、入学生徒数の増加を目指す。	学校説明会・オープンスクールを3回ずつ開催し、昨年度比20%アップの参加者を目標とする。	A	学校説明会・オープンスクールはコロナ感染の影響で変則的な開催となったが、延べ464名の参加であった。昨年度比15%アップを達成した。	A	受験者が激増し、大変成果を収めているとおもいます。来年度も継続してください。
企画・研修 (企画研修)	教育方針具現化に向け、共有化できた学校全体の課題の改善にむけた取組を行う。	教職員としての資質・能力を向上させるため、生徒の変容で実感できる研修を企画・実施する。	A	グループ編成をし、課題の共有や改善に取り組んできた。授業改善の意識は高まった。	A	研修の成果を上手に生徒に還元してください。
防災 (総務)	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。職員・生徒向けのAED講習等を実施する。	4月に全校で避難経路確認。9月に避難訓練を実施予定。10月までに職員に対してAED講習を行う。	A	4月の避難経路確認、9月の避難訓練は実施。AED講習はコロナ感染流行のため実施不可。生徒の自主的な地域防災訓練への参加もあった。	A	コロナ禍が収まったら、来年度はぜひAED講習を実施してください。
事務 (事務)	School Compliance に基づいた適切な運営を行うと共に、生徒及び来校者に親切・丁寧な対応を行い教職員が働きやすい環境を作る。	定められた手続きに準拠し、適切な事務が執行されるように事務部を運営すると共に、生徒及び来訪者に親切・丁寧な対応を行う。	B	透明性を更に高めるよう努めると共に「働き方改革」を意識し、サーバーも入れ替えた。特待生制度も生徒・保護者に分かり易く改善した。訪問者へは親切・丁寧を心掛け対応した。	A	訪問者へは親切・丁寧な対応を、ぜひ継続してください。

課題・検討事項

コロナ禍で多くの行事が制約を受けたにもかかわらず、多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加し、感謝と奉仕の心を育むことができた。進学、就職については生徒個人が努力を積み重ねたので、満足できる結果を残せた。地域社会と協働し、SDGs精神の普及・促進に向けた取り組みを実践する学校として、教職員と生徒が一丸となって取り組むことができた。次年度はユネスコスクール加盟を目指してスクール・ミッションを策定したい。